

会員の皆様、こんにちは。

この度、石田昌宏議員は、参議院厚生労働委員会 委員長を拝命いたしました。秋の臨時国会では、障害者雇用や、水道法の改正など国民の暮らしに密着した課題が厚労委員会で議論されることとなります。

少子高齢化により国のあり様が大きく変わっていく日本ですが、立法や制度改革を通じて課題先進国となるチャンスでもあると思います。厚生労働委員長としての石田議員にもご期待ください。

石田まさひろ政策研究会

首都圏治水の守護神

■ 台風の変化

近年、台風の発生状況や進路が従来と違うと感じておられる方も多いのではないだろうか。6月29日に発生した台風7号は梅雨前線を刺激し、広い地域に豪雨をもたらした。特に広島県、岡山県では被害が大きく、報道をご記憶の方も多いただろう。上陸後は北海道まで到達し、オホーツク管内を流れる湧別川を増水させ橋脚を折ってしまうほどであった。ひと昔前の記憶に従えば、台風は九州四国を襲うもの、上陸後は勢力が急速に弱まるもの、という思い込みがあったように思う（もちろん伊勢湾台風のような例もあるが）。

近年の台風は、発生時期が早まり、進路も蛇行し、広い範囲に大雨を降らせる、という印象がある。因みに、今年2018年の台風1号の発生は1月3日であり、これは1951年に気象庁が統計を取り始めて以来、3番目に早い記録となった。

■ 治水こそ統治の要（かなめ）

古来より、どの文明にあっても治世者（統治者）の最も重要な仕事は「治水」であったとも言われる。ナイル川しかり、チグリス・ユーフラテス川、インダス川、黄河・揚子江しかりである。治水とは、大雨による河川の氾濫をコントロールしようという試みはもちろんのこと、高潮、地滑り、土石流などから人命・財産を守る事業も指している。そのための方策が、堤防や護岸、ダム、遊水池であり、古くから人類は涙ぐましいほどの知恵を絞って、自然と格闘してきたのである。



荒川の一部は人工の放水路

■地下の神殿～首都圏外郭放水路～

その治水の一つに、「放水路」がある。放水路とは簡単いうと河川のバイパスであり、人工水路を作って嵩の増した水を逃がしてやることである。

ここでは、世界最大級の放水路をご紹介したい。埼玉県春日部市から6キロメートルにわたり国道16号線直下、深度約50メートルの地下に壮大な「神殿」が鎮座しているのをご存じだろうか。もちろん本物の神殿ではない。巨大な柱が荘厳な神殿を思わせる作りになっていて、実は、巨大な地下放水路なのである。その名を、「首都圏外郭放水路」という。国土交通省の管理する一級河川である。首都圏の溢れそうになった河川の水を地下に取り込み、江戸川に流す機能を持つ。国交省のホームページによれば、

「水を取り込む直径30メートル、深さ70メートルにおよぶ5本の巨大立坑をはじめ、地中深く6.3キロメートルにわ

たって走る直径10メートルの地底トンネル、重量500トンの柱が59本もそびえるマンモス水槽、そして、毎秒200立方メートルの水を排水する14000馬力タービンなど、そのすべてが想像を超えるスケールです」

ということになる。まさに想像を超えていて、どれくらいスゴイのかさえわからないほどだ。

しかし、そのスゴさを実感してもらえる方法がある。実は、今年の8月から、毎日見学会が催されているのだ。所要50分、一日7回、専属の放水路案内プロ集団「防災地下神殿コンシェルジュ」が案内してくれる。防災については各人の心構えが最も重要であるが、このような施設を見て防災意識を高めるのも一方ではなかろうか。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/gaikaku/intro/index.html>



首都圏外郭放水路には、彩龍の川という別名もある

著者：治水マニア

Seki-shiN石心 石田まさひろ政策研究会メールマガジン **vol. 043**

このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。ご意見は info@masahiro-ishida.jp までお寄せください。

【配信停止・設定変更】本メールサービスの解除を希望する方は、石田まさひろ政策研究会までご連絡ください。

【配信元】石田まさひろ政策研究会 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-1-1

Copyright© Masahiro ISHIDA all Rights Reserved ---掲載記事の無断転載を禁じます---